

2015 年度、時事問題市民学習会報告書

1. 実施事業と参加者数

(敬称略)

1. 6月13日、(*庭野平和財団と共催)
 - a. 「戦後沖縄の歴史と現在」、新崎盛暉(もりてる)(元沖縄大学学長)
 - b. 「不屈の現場 - 辺野古」、金井創(はじめ)(日本基督教団 佐敷教会牧師・
沖縄キリスト教学院大学平和研究所コーディネーター) (80名)
2. 7月28日、「安保関連法制の背景と問題点」川崎 哲(あきら)氏(ピース
ボート、共同代表)、(23名)
3. 9月24日、「原発問題の根幹と福島での被曝等」、島菌 進 先生(上智大学
神学部教授) (27名)
4. 11月13日、「安保法制の成立と今後の市民社会のあり方」、山口二郎(法政大学
法学部教授) (18名)
5. 12月25日、「TPPとは何か-その基本的理解」、内田聖子(アジア太平洋資料
センター(PARC)事務局長)、(24名)
6. 01月18日、「TPPの社会生活への影響」、内田聖子(アジア太平洋資料
センター(PARC)事務局長)、(9名)
7. 03月19日、(*庭野平和財団と共催) *参加費無料
「若者の貧困問題」～包摂か、排除か、現場の声から～ (75名)

参加者数-延べ 256名(平均 36.6名/回)2. 収支報告(円)

a. 収入	— 助成金(庭野平和財団より)	510,000	
	会費(参加者より500円/人)	80,500	(小計) 590,500
b. 支出	— 講師謝礼(6名)	210,000	
	シンポジウム協賛金	60,000	
	交通費(沖縄-羽田-ホテル、都内)	35,700	
	本年度および次年度テーマの策定(2名)	70,000	
	会場費(5回)	155,600	
	資料作成費	6,076	
	茶代(7回)	22,214	
	ボランティア夕食(1回)	29,810	
	その他(文具ほか)	1,100	(小計) 590,500
c. 差額			0

3. 感想

- a. テーマについて：国内政治の激しい変化に伴い、今回の一連のテーマを、あげざるを得なかった。一方、それ以外のテーマで参加者の関心を呼ぶ可能性のあるもの、例えば、経済格差、教育長の選任などは取り上げることが出来なかった。テーマおよび講師の選定にあたっては、アンケート方式（対象：参加者）も考えられるのではないか。
- b. 講師について：講師の話し方の特徴、資料の作り方により、受講者の集中力や講演の評価がかなり変わってしまったので、今後、講師の選任時には、これらの点についても注目したい。
- c. 参加者がほとんど固定してしまい、当初予定したようなこの学習会開催が、参加者からその関係者へと拡散されることがない傾向は続いている。
- d. 参加費の値上げは、今のところ考えておりません。参加者のニーズがつかめない中で、コアとなる人々の数が伸び悩んでいるので、値上げの同意を得るチャンスが作れないのが現状。
- e. 主たる参加者は、立正佼成会、新宗連、WCRP関係者、NCC関係者がほぼ90%を占めた。

世話人代表 島山 友利

c/o ACRP 事務所

東京都杉並区和田2-6-1 普門館内